

History of Asahi Ward

旭区

地域史

大阪市旭区地域史づくりワークショップ

たかどの

高殿 編

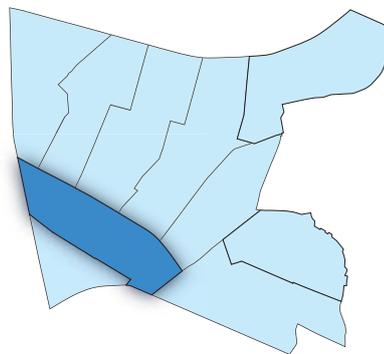
昭和40年の城北川

区民による地域史づくり・人づくり

平成22年3月

いまむかし

旭区の今昔を知る会
大阪市旭区役所



旭区 地域史

区民による地域史づくり・人づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ

平成21年度実施地域 高殿・生江・城北

はじめに～地域史について

■この「旭区地域史」は、地域の歴史を発掘する区民の取り組みとして、平成21年5月28日から平成22年3月11日の約10ヶ月間に計10回ワークショップを開催し、その成果として参加者の手によって作成されたものです。ワークショップは、地域史の作成とともに、「知って得する旭学講座」などで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、活動を通じて地域コミュニティのさらなる向上を図ることも目的としています。

■ワークショップに参加された方は、これまで地域を研究されていて歴史について大変知識のある方から、旭区にずっと住んでおられるが地域の歴史をあまりご存じでない方までいらっしゃいましたが、「地域史をつくる」という1つの目標に向かって一丸となり取り組みました。

■今後は、旭区民が作成した初の「地域史」として、多くの方々に興味を持っていただき、地域のコミュニケーションを高めるツールや学校の教材など、様々な場面で活用されていくことが期待されます。

■地域史の作成にあたり、各種資料をご提供いただいた関係機関の皆様、心からお礼を申し上げます。



■第1回(平成21年5月28日)



■第4回(平成21年7月23日)



■第5回(平成21年9月8日)



■第2回(平成21年6月18日)
まちあるき(高殿)



■第3回(平成21年6月24日)
まちあるき(生江・城北)



■第6回(平成21年10月9日)



■第7回(平成21年11月12日)



■第8回(平成21年12月3日)



■第9回(平成22年1月13日)



■成果発表会(平成22年2月27日)



■第10回(平成22年3月11日)

- 旭区でそれはいつから始まったのか? 3
- 地域の移り変わり 4
- 高殿のテーマ 5
- ワークショップの活動記録 6
- 大宮神社の参道 7
- 城北川 11
- 旭プールの思い出 18
- 高殿のまちあるきで発見 19
- 高殿小学校 21
- 旭陽中学校 29
- 昭和5年に新装開店の
飾り付けをした米穀店 30

明治以降の旭区のおゆみ



明治	4年 (1871)	廃藩置県(大阪府を置く) 旭区域は摂津県東成郡に属す	
	6年 (1873)	千林小学校創立	
	8年 (1875)	淀川修築工事着工 水制(ケレップ)工事が始まる 中村小学校(現、城北小学校)創立	
	18年 (1885)	淀川左岸決壊し、大洪水が起こる。翌年にかけてコレラが大流行	
	22年 (1889)	市制町村制施行(大阪市発足) 旭区域は東成郡のまま 清水、古市、城北村がこの頃成立。	
	29年 (1896)	淀川大洪水 翌年から淀川改良工事が始まる	
	43年 (1910)	京阪電車開通(天満橋~五條間) 蒲生・野江・森小路駅開設	
	45年 (1912)	この頃、千林商店街ができる。	
	大正	6年 (1917)	城北村に初の上水道給水
		7年 (1918)	米騒動が起こる
11年 (1922)		古市・清水小学校創立 関西工学専修学校(現大阪工業大学)創設	
13年 (1924)		古市耕地整理組合設立 城北村で共同浴場開設	
14年 (1925)		大阪市第二次市域拡張 旭区域が市域に編入され東成区に	
15年 (1926)		城北土地区画整理組合設立	
昭和		2年 (1927)	京阪国道(現、国道1号)の舗装工事始まる 京阪電鉄にロマンスカー登場
		3年 (1928)	片町~森小路、東野田6丁目~森小路1丁目間で区内初の市バス運行。
		4年 (1929)	区画整理事業による町名変更が行われる(昭和20年まで) 森小路、北船場、大宮で土地区画整理組合設立。
		5年 (1930)	榎並之荘、清水で土地区画整理組合設立。
	6年 (1931)	市電都島~守口間開通 森小路遺跡が発見される	
	7年 (1932)	旭区が誕生(東成区から分区) 新森中央公園開園	
	8年 (1933)	京阪国道(現、国道1号)開通 京阪電鉄蒲生~守口間高架複々線工事完成	
	9年 (1934)	城北公園開園 室戸台風襲来	
	12年 (1937)	御堂筋竣工	
	15年 (1940)	城北運河(現、城北川)完成	
	18年 (1943)	南半分が城東区、一部が都島区となり、現在の旭区となる。旭公園開園	
	20年 (1945)	大阪市東北部大阪大空襲(6月7日) 終戦(8月15日)	
	24年 (1949)	旭区役所庁舎再建(火災焼失のため)	
	28年 (1953)	台風13号による大洪水が起こる	
32年 (1957)	今里~守口間でトロリーバス運転開始 ダイエー1号店が千林にオープン		
38年 (1963)	太子橋中公園開園		
39年 (1964)	城北公園に菖蒲園開園		
43年 (1968)	阪神高速道路北浜~森小路間開通		
44年 (1969)	市電全廃		
45年 (1970)	豊里大橋完成、平太の渡し廃止 旭区役所新庁舎完成 万国博覧会開催		
46年 (1971)	阪神高速道路守口線開通 旭区全域が下水処理区域になる		
48年 (1973)	城北運河魚釣り場オープン		
49年 (1974)	城北運河歩行者専用道路完成 大阪市分区により26区に		
50年 (1975)	旭図書館、区老人福祉センター開設		
52年 (1977)	地下鉄谷町線都島~守口間開通 千林大宮、太子橋今市駅設置。		
58年 (1983)	淀川大堰竣工		
平成	元年 (1989)	菅原城北大橋開通 大阪市合区により24区に	
	2年 (1990)	国際花と緑の博覧会開催	
	6年 (1994)	旭スポーツセンター開設	
	12年 (2000)	旭区民センター・芸術創造館・旭図書館完成	
	14年 (2002)	旭屋内プール、城北市民学習センター開設。	

※「ぶらり探訪 旭の見どころ・知りどころ」より抜粋



旭区でそれはいつから始まったのか？

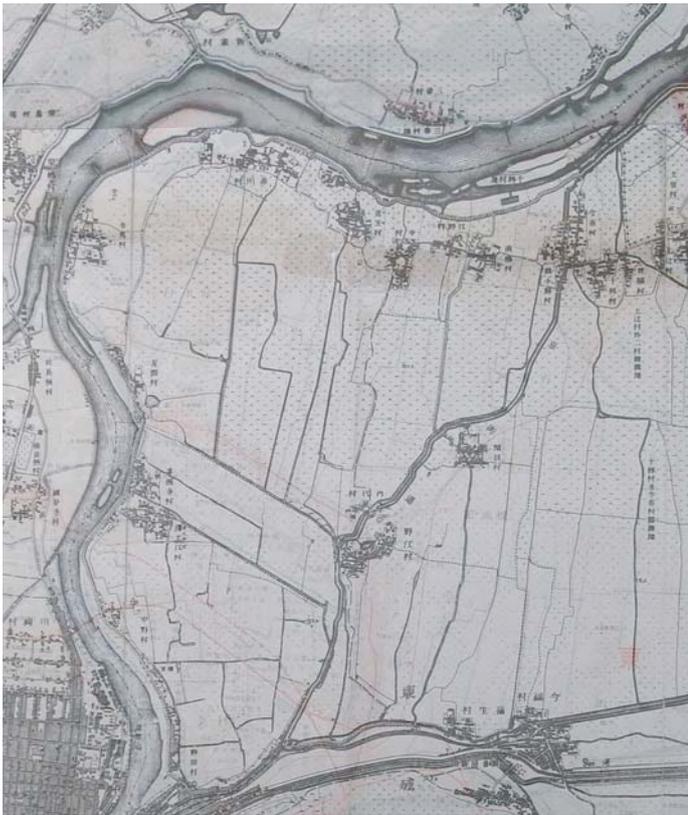
資料提供：小井戸茂

項目	年代	摘要
電気	明治43年	京阪電鉄毛馬火力発電所より供給開始
水道	大正11年	城北地区一部で送水開始、大正13年に古市・清水地区まで普及
ガス	昭和3年	大阪ガスが旭区へ供給開始、昭和6年に区内全域に供給
私鉄	明治43年	京阪電車開通、森小路駅開設。昭和6年に新線(B線のみ)へ移転
市電	昭和4年	都島本通～今市間開通、昭和6年に今市～守口間開通
市バス	昭和3年	森小路1丁目～片町間運行開始、昭和6年に森小路8丁目まで延長
トコバス	昭和32年	守口～今里間運行開始、昭和45年に廃止
地下鉄	昭和52年	谷町線都島～守口間開通
公園	昭和7年	森小路中央公園開園、次いで昭和9年に城北公園開園
郵便局	大正6年	特定局森小路郵便局開局（ただし集配は本局鯉江郵便局）
電報	昭和8年	森小路郵便局で取扱い開始
電話	明治35年	今福郵便局電話分室で交換事務開始
警察署	昭和16年	旭警察署開署、以前は今福、網島、守口3署の管轄
消防署	昭和23年	旭消防署開署、以前は今福消防署の管轄
区役所	大正14年	東成区役所出張所を千林に設置、昭和7年に旭区役所新設
保健所	昭和16年	森小路保健所開所（大宮2）、昭和38年に新庁舎へ移転
税務署	昭和7年	旭税務署開署（野江中3）、昭和41年に新築移転
総合病院	昭和7年	区内にはなし。最寄り大阪高等女子医学専門学校付属病院開院
市民病院	昭和28年	市立城北市民病院開院、平成5年に市立総合医療センターに併合
大学	昭和24年	摂南工業大学発足（半年後に大阪工業大学と改称）
実業高校	大正12年	京阪商業仮開校、公立では昭和12年に第六職工学校開校
普通高校	昭和28年	府立旭高等学校開校（設立当初は府立第48高等学校）
新制中学校	昭和22年	市立旭第一中学校開校、昭和24年に旭陽中学校と改称
小学校	明治6年	組合立千林小学校創立、大正11年に古市・清水両小学校に分離
養護学校	昭和15年	市立思斉学校開校、昭和32年に思斉養護学校と改称
幼稚園	昭和13年	私立新森幼稚園開園、公立では昭和52年に市立旭東幼稚園開設
保育所	昭和8年	市立生江保育所開所
図書館	昭和50年	旭図書館開館、平成12年に現在地に移転
映画館	昭和12年	江南キネマ開館
大相撲	昭和12年	大阪国技館開館（関目は当時旭区）、昭和16年に中止
水都祭	昭和38年	旭区淀川河畔で開催、昭和49年まで。以後天神祭奉賛行事に併合
ラジオ	大正14年	(社)大阪中央放送局放送開始、昭和6年頃から受信機普及
テレビ	昭和28年	NHK本放送開始
地方銀行	大正9年	加島銀行森小路出張所開店
都市銀行	昭和8年	三和銀行森小路出張所開設、昭和13年に支店に昇格
近代工場	明治30年	奥村織布工場開業、旭区の工業の始まり
市場	大正9年	古市村営公設市場開場（後の森小路公設市場）
スーパー	昭和27年	ニチイ千林店発足（赤のれんが改組）、後のスーパーへ
百貨店	昭和6年	高島屋森小路店開店、のち斜め向かいへ移転
近代的国道	昭和8年	国道2号（別名京阪国道）開通 ※現在は国道1号
高速道路	昭和43年	阪神高速森小路線開通
運河	昭和15年	城北運河完成（昭和12年に古市橋開通）
渡し船	明治37年	平田の渡し（豊里村営で）。延宝4年(1676)以降個人経営
市議員	昭和4年	現旭区出身の第1号 寺西圓治郎氏
水洗便所	昭和47年	今福下水処理場完成で実現
町会隣組	昭和15年	昭和22年に解散、現行の制度は昭和50年に旭区地域振興会発足から
現住居表示	昭和46年	町は削除、丁目・番・号制に改正…新地名登場(高殿、新森、清水、太子橋)



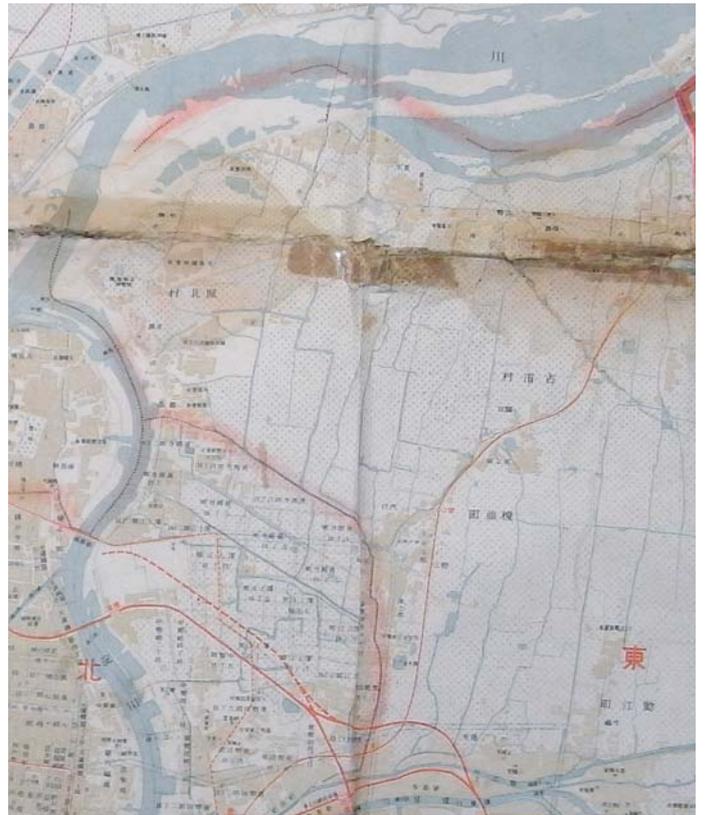
地域の移り変わり

協力：大阪市史編纂所



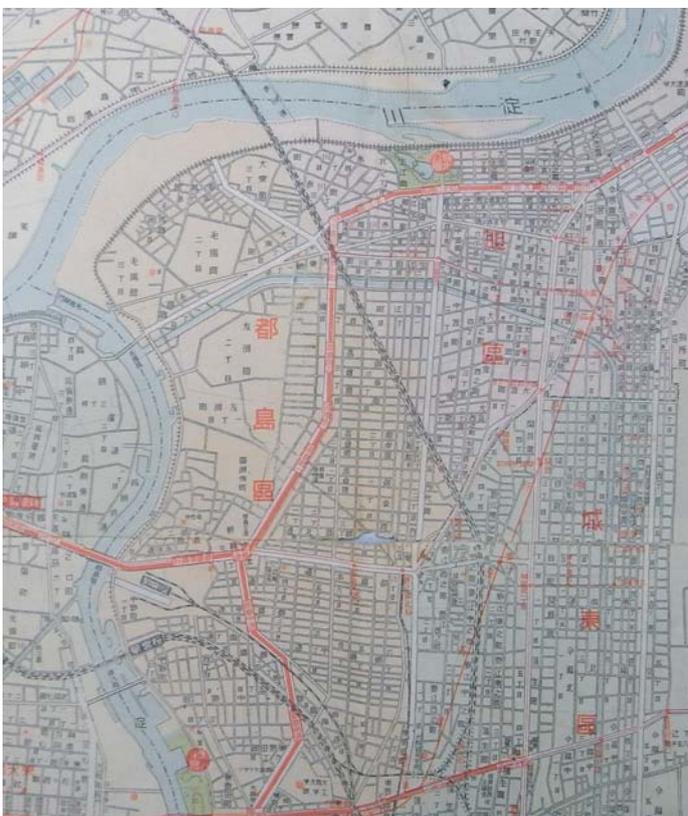
■明治20年(1887年)の旭区周辺

1887



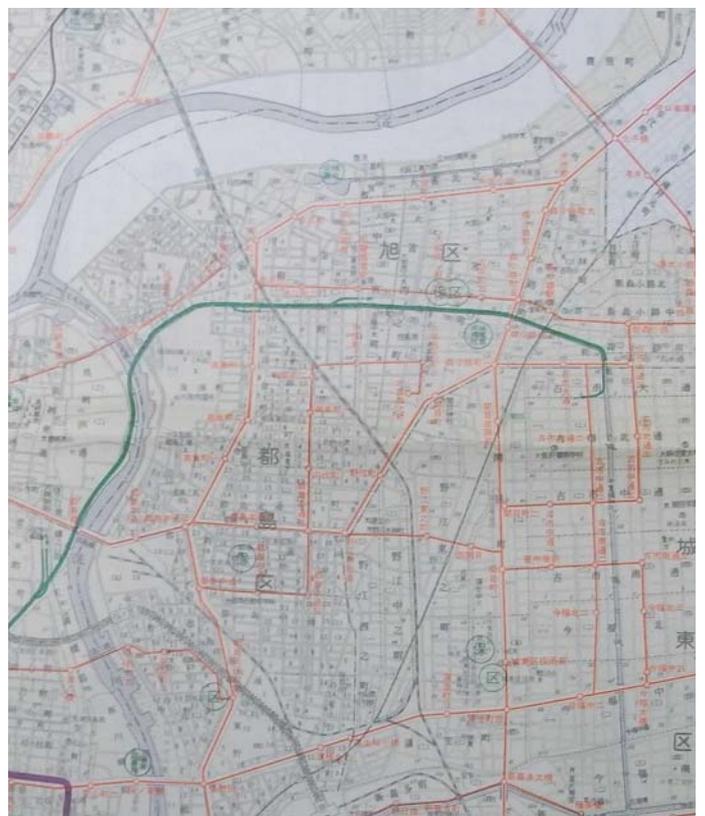
■大正14年(1925年)の旭区周辺

1925



■昭和29年(1954年)の旭区周辺

1954

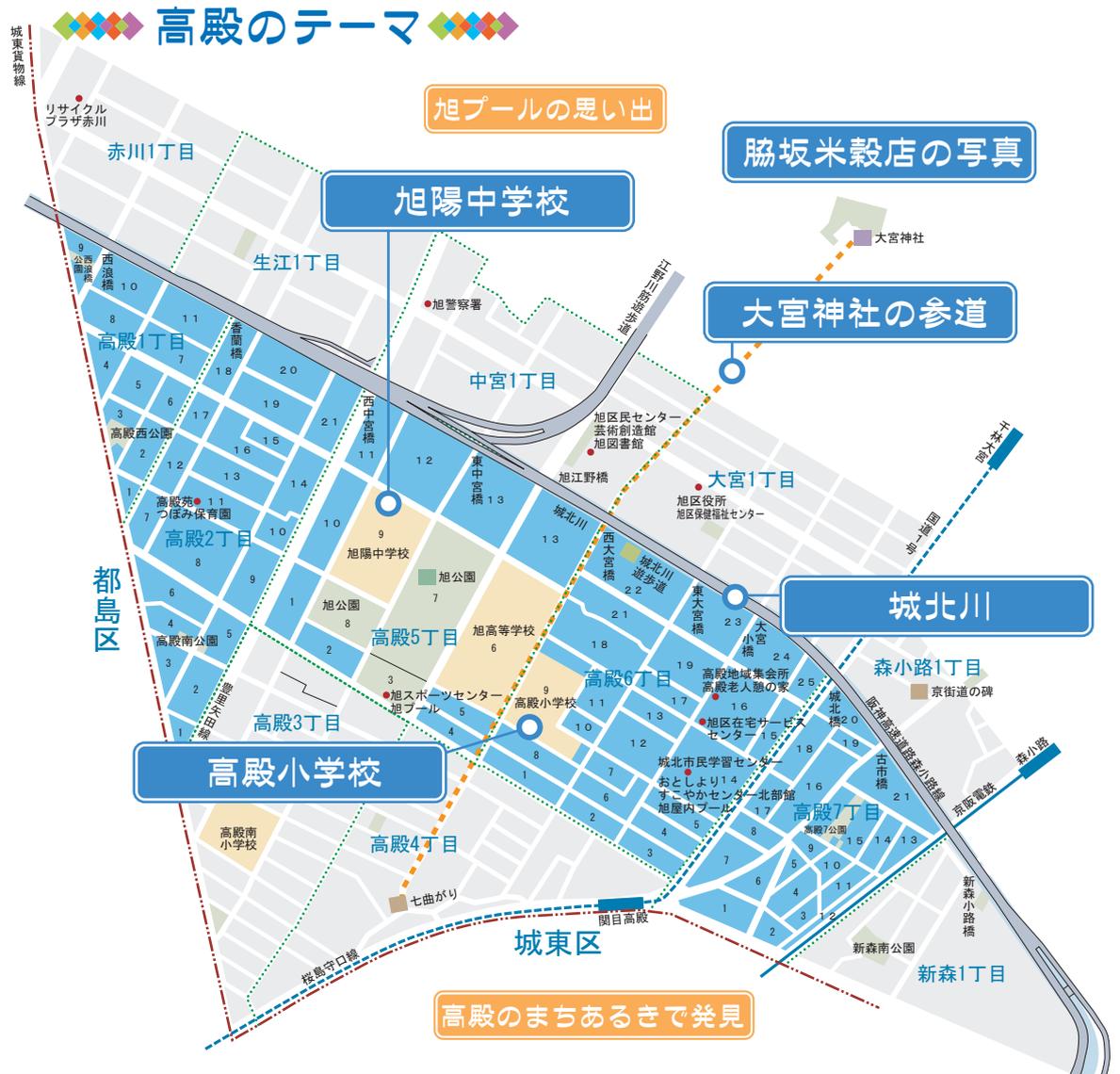


■昭和45年(1970年)の旭区周辺

1970

高殿

大阪府旭区
高殿1〜7丁目
takadono



城北川ランニングコース(まちあるきの様子)



平成21年度地域史づくりワークショップメンバー敬称略・50音順
 ■上田(勢) ■上田(信) ■上田(泰) ■遠藤 ■小椋 ■草末 ■小林
 ■竹中 ■千葉 ■富増 ■豊田 ■中村 ■奈佐 ■原田 ■福田

ワークショップの活動記録

ワークショップ開催日	議論のポイント・内容
第1回 平成21年5月28日	「進め方について～年間のプログラム」 「知りたいこと・知っていること・してみたいこと」
第2回 平成21年6月18日	「高殿のまちあるき」
第3回 平成21年6月24日	「生江・城北のまちあるき」
第4回 平成21年7月23日	「担当テーマを決める1」 「キーワードを出す」「まちあるきの整理」
第5回 平成21年9月8日	「河川施設の見学」「担当テーマを決める2」
第6回 平成21年10月9日	「持ち寄った資料を束ねる」「発表会について」
第7回 平成21年11月12日	「地域史紙面レイアウト1」「発表会について」
第8回 平成21年12月3日	「地域史紙面レイアウト2」「発表会について」
第9回 平成22年1月13日	「地域史紙面レイアウト3」「発表会について」



まちあるき(生江・城北)

成果発表会

平成22年2月27日

旭図書館多目的室において、
地域史づくりワークショップ発表会
「旭区 いま・むかし」を開催



プログラム

- 1 地域史づくりのワークショップに参加して
- 2 城北川ぶらウォーク
- 3 柳通りの今昔
- 4 旭図書館の資料紹介
- 5 市史編纂所のご案内
- 6 区民のオアシス城北公園
- 7 大宮神社の参道・一の鳥居



第10回 平成22年3月11日

「成果発表会のふりかえり～
これからの取り組みについて」「地域史の最終校正」



絵図からみる「一の鳥居」

大宮神社の参道

かねてより思いが実る

大宮神社については、旭区地域史・大宮編で既に編纂されており、ここではその参道について、とりわけ「一の鳥居」に関する資料をまとめた。

大宮神社は、もと大宮八幡宮といい、応神天皇を祀ってある。
『摂津志』に南島神社と見えるのは、旧古市村大字南島の地名をとったものである。

『難波大阪』

南島村は淀川左岸にある南北に細長い村で、西は江野村、南は京街道を隔てて関目村に接する。北部の集落内を東西に野崎街道が通り、京街道から分岐して淀川堤防に至る長さ12町・幅六尺の大宮道(六尺道)が野崎街道と交差する。

『日本歴史地名大系』

この大宮道が、まさしく大宮神社の参道である。

むかし、京街道に面する旧大宮一丁目(現在高殿四丁目)に「一の鳥居」があり、ここより神社の馬場先まで道の両側に松並木があった。

長さ12町は約1300m、現在の地図で確認できる。

今回、大宮神社のはからいで昔の絵図をお見せいただいた。

絵図には、京街道の七曲がり描かれ、さがしもとめた「一の鳥居」、大宮道と松並木、一里塚。

周辺には、内代村、江野村、参道の先に「南島村」、森小路村が見える。



■現在の「一の鳥居」付近
(平成20年10月22日の「まちあるき」にて)



■大正13年測の地図(資料:大阪市史編纂所)



■境内古圖(提供:大宮神社)

境内は樹木がうっそうと茂り、四周に清らかな流れがひかれています。
橋を渡り神域にはいる。右手に手水舎、楼門をくぐると、二の鳥居、拜殿へと進む。



ここに、大宮神社の本殿がある。本殿の神門東には影向梅(えこうばい)、神門西には亀甲石(きっこうせき)が、そして本殿を取り囲むように、若宮、高良社、鬼門守護社、北斗社、三元殿、七社相殿、御輿殿が見える。絵図の左下に、神井、絵馬掛け所、御供所。拜殿の右側に、神楽殿、神官□所など、丁寧に描かれている。

宝物、豊公当時の境内圖書より「一の鳥居」をみる

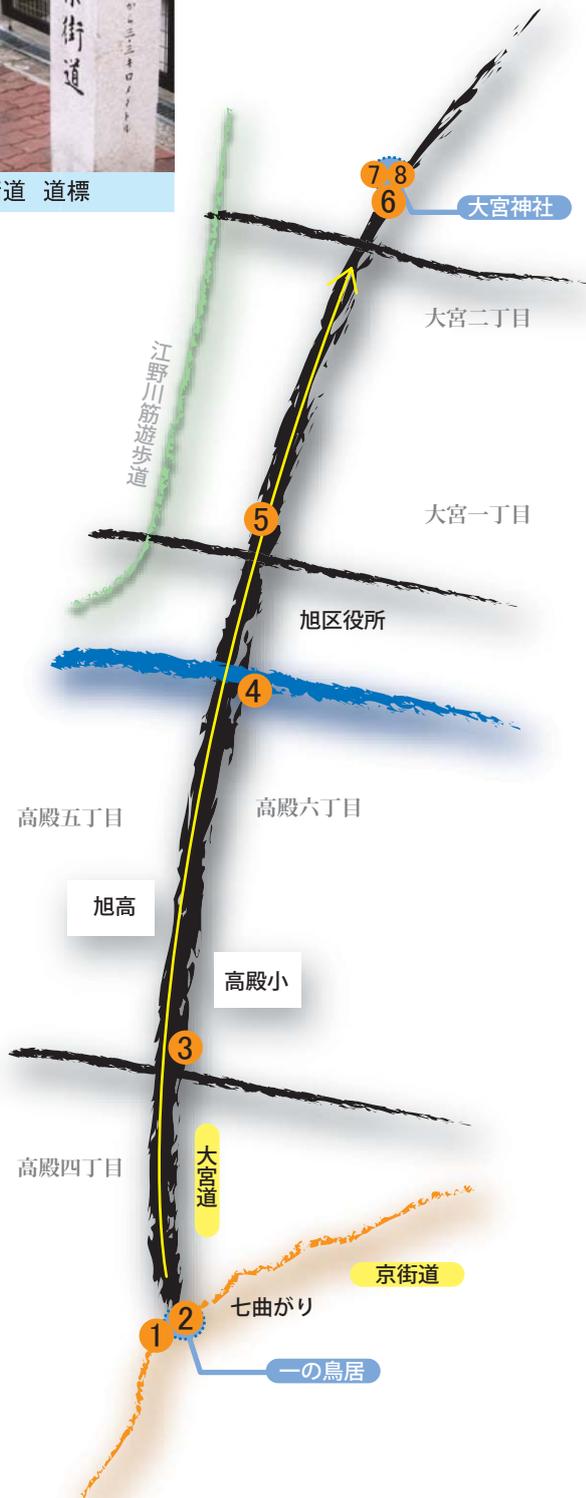
写真で見る

さて、写真で見る現在の大宮道である。

①京街道、七曲がりから②一の鳥居、③右に高殿小学校、左に旭高校の道を北へ、④西大宮橋を渡り⑤旭消防署の横に出る。



■京街道 道標



■図1



2

■京街道と七曲がり交差点付近



3

■城北筋北向き高殿小学校付近を臨む



4

■西大宮橋



5

■旭消防署前交差点から北を臨む



6

■大宮神社



7

■大宮神社 境内

信号を渡り、⑥北へまっすぐのびる道が参道である。⑦その先に大宮神社の大樹がそびえている。



8

⑧その一つが大宮神社の「モチの木」である。

モチの大樹に立札があり、「いぼ大神の由緒」が書かれている。

「昔から里人達がこのモチの老木を、いぼ神様と崇め奉り、木肌と自身の肌とを交互に撫でて疣(いぼ)はもとより、吹出物や内臓の病も疣にことよせて祈願をすれば、靈験顕たかで必ず治ると言い伝えられ厚く信仰されてきました」。<福田輝雄>

モチの木は今も大切にされている

- 参考文献
1. 大宮神社・由緒
 2. 大宮神社・境内古圖・豊公當時ノ境内圖書
 3. 大宮神社・「一の鳥居」石造明神造り 高15尺
 4. 大宮神社・「二の鳥居」石造明神造り 高14尺 とある。(東成郡神社誌)



城北川

きのう・きょう・あす

街を流れる、一級河川(城北川の概要)

私たちの街を静かに流れている、城北川を歩いてみました。城北川は大阪市の東部、城東区・旭区・都島区、35.6万人が暮らす3つの区を、70年間黙って流れています。

城東区今福2丁目の寝屋川右岸から、都島区友淵町の旧淀川左岸に至る人工の水路。全長は5.6km。旭区2.2km城東区2.1km都島区1.3km。川幅は40m、平均水深は3.5mです。

昭和15年(1940)、城北運河が完成しました。大阪市内で開削された、最後の運河(臨海部をのぞく)です。それから45年後の昭和60年(1985)、「城北運河」は1級河川「城北川」に指定されました。工業製品や原材料を船で運んだ生産運河から、人と生きものがいっしょに暮らす快適河川へ…。時代が移り、その役割も変わってきました。

住民のための快適な水空間づくりが始まり、工場の郊外移転や国や大阪府の補助により護岸工事が進められました。城北川は、ふるさとの川・モデル河川に指定され、“うるおいとふれあいのある水辺”に生まれ変わります。水面を眺めながらウォーキングやランニングする遊歩道、川に隣接した彫刻モニュメント広場、滝の流れと水の音を演出した清流広場、護岸の階段からの魚釣り、恋人たちの語らい。

水とたたかい、水を生かし、水とともに生きてきた大阪。城北川は、旭区未来まちづくりを夢みながら、きょうも微笑んでいます。



■一級河川の標識
(大阪府の管轄 新森小路橋附近)

■城北川旭区域の
最下流にある西浪橋公園



運ぶ河から、歩く川へ(城北川の歴史)

城北運河は、第二次世界大戦が始まる前年、昭和15年(1940)12月、寝屋川と大川を結んで開削され、流れはじめました。70年間の歴史を、年代順に記述します。

大正時代(1912～1926)

この周辺は集落が点在する、のどかな田園地帯が広がっていました。

昭和3年(1928)世界的な不景気

「城北運河」都市計画が決まりました。大阪東部の開発として、区画整理とともに、寝屋川以北の工場地帯の開発と運河計画が作られました

昭和10年4月(1935)

大阪市による開削工事が始まりました

昭和15年12月17日(1940)第2次世界大戦勃発

5年8ヶ月の年月を経て、大阪最後の都市部運河「城北運河」全長5.6kmが完成しました。

昭和30年代後半(1960～1964)東海道新幹線開通

河川地域の発展による工場廃水、住民の生活廃水の増加により、最悪の汚濁水質が測定されました。

昭和41～45年(1966～1970)高度経済成長期

工業、生活廃水の運河流出をなくす下水道幹線の設置
河川公園、遊歩道が整備されました
阪神高速道路守口線の工事が始まり、完成しました。

昭和45年(1970)大阪万博開催

大阪湾の潮の干満にあわせて、水門を開閉。水質の悪い寝屋川の水を廃し、水質の比較的良好な大川の水を導入大幅に水質改善されました

昭和50年5月(1975)経済安定成長期

城北川の左右、両岸に遊歩道が完成しました

昭和60年(1985)阪神タイガース優勝

城北運河から、1級河川「城北川」に指定されました

昭和62年(1987)バブル経済崩壊

”ふるさとの川・モデル河川”に位置づけられました



■開削時の城北運河と旭区紹介(夕刊大阪新聞社昭和13年/資料:大阪市史編纂所)



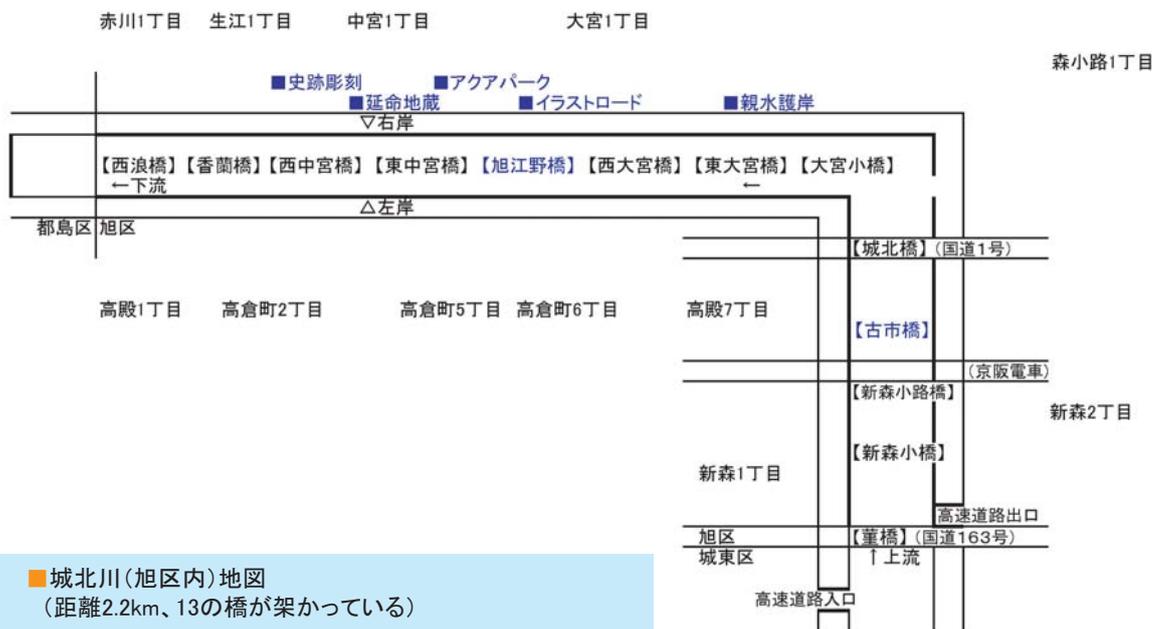
■工場が立ち並ぶ昭和40年頃の城北運河(写真:旭区ホームページ)



■現在の城北川(北葦橋から 平成21年10月撮影)

城北川の上流から下流まで歩きました。

元気な人びと、小さな動物、青々とした樹木に出会い、そして川岸の名所を発見しました。旭区内を中心に紹介します。



夏の朝、国道163号の「葦橋」をスタートし、赤川町の「西浪橋」まで、往復約4.4kmの道のりは、40分ほどかかりました。万歩計の数字も、7,500歩を超えていました。

おしゃれな白髪のお年寄りに会いました。とてもお元気そうでした。出勤前の30代若いカップルに会いました。輝く笑顔がすてきでした。小さなリュックを背負った、ウォーキングラリーのグループに『おはよう!』と挨拶しました。

ジョギング・コースの標識も、各ポイントに立っています。1000mから2500mまでの全6コース。スポーツ少年からアスリートまで、健脚を競っていました。

道すがら、水辺に遊び、川を愛する場所や場面を見つけました。

城北川のビューポイントです。

東大宮橋-旭江野橋約150mの「イラスト・ロード」



旭区の花、菖蒲の花弁をイメージした噴水と流れる滝があり、アクアパークとして憩いの場として最適です。

市立大宮第二保育所に隣接する遊歩道には、ピエロ・キリン・とんぼ・月・星など…可愛いイラストが画かれています。

旭区民センター附近「アクアパーク」



中宮橋右岸の「延命地蔵」



東、西中宮橋の護岸壁面約100mに「旭区史跡巡り」の壁面彫刻があります。城北菖蒲園・京街道・平田の渡し跡…など、みごとな作品群です。

東中宮橋たもとに「延命地蔵尊」が祀られています。城北川の守る安全祈願に手をあわせる人を見かけました。

東中宮橋～西中宮橋「旭区史跡彫刻壁画」



また城北川を散策しますと、たくさんの橋に出会います。その数、全29橋梁。旭区には13の橋が架かっていますが、そのうち2つの名橋をご紹介します。

旧街道に架かる懐かしい橋「古市橋」



文六年間(1592～1597)、豊臣秀吉の命によりつくられた大阪城の京橋から京に至る「京街道」にかかる橋です。いまの橋は、城北運河の開削と合わせて、昭和12年(1937)に架設されました。長さ約41m、幅7.3m。江戸時代の参勤交代や幕末の乱で敗れた武士に思いを馳せながら渡りましょう。

遊歩道と調和する優美な曲線「旭江野橋」



中宮1丁目と高殿5丁目をむすんでいます。遊歩道との調和し、女性的で優美な曲線が特長です。長さ約37m、幅3m。昭和51年(1976)に完成しました。旭区では菅原城北大橋、豊里大橋とあわせて、3名橋といわれています。

城北川を生きものの楽園、パラダイスにしましょう。

親水護岸や橋の袂から釣り糸を垂れている太公望に、よく会います。どんな魚がいるのでしょうか。ブルーギル・ブラックバス・コイなどがいるそうです。でも私は、釣れた瞬間を見たことがありません。

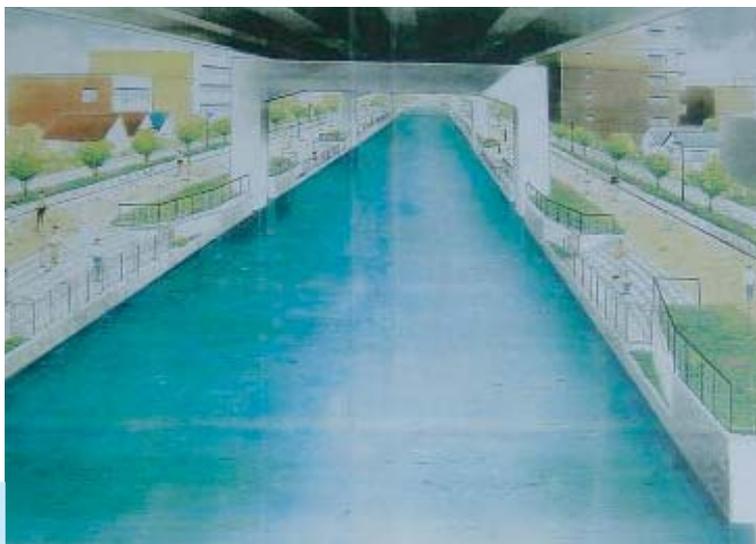


蒼鷺の姿を見ました。中葦橋の欄干に飛来して、釣り人たちの捕獲を狙っているそうです。名まえは「アオサギ」。全長90cm、翼を広げると160cm以上。クォーツと叫びながら、青い空へ飛翔していきました。このほか、城北川にはカルガモ・キジバト・ムクドリ・ヒヨドリなども生息しているそうです。

■城北川に生息するアオサギ(写真:大阪市立環境学習センター)

水の都に住む人は(城北川の未来)

平成22年12月(2010)、城北川は70才になります。古稀を機に、可愛い子どもたちや孫のために、この川の未来を考え、新しい水の都を夢み、住みよいまちを提案することにしました。



■城北川完成イラスト(資料:大阪市建設局工営所)

城北川の水面・川岸・上空にわけて、書いてみます。

まず城北川の水面。

この川の始まりを取材しながら、「城北川で泳いだ」という話を聞きました。

次の世代、次々時代の子どもたちの遊泳場や河川公園になるよう、アクア技術やバイオ技術を駆使して清流をつくり、泳げる川の提案です。

城北川の左右兩岸をなんども歩いてみましたが、一部の遊歩道は暗く、汚れた道に遭遇しました。とくに旭区右岸は、レンガ舗装が遅れているだけでなく、自転車が遊歩道に放置、大型ゴミやポイ捨てゴミもありました。

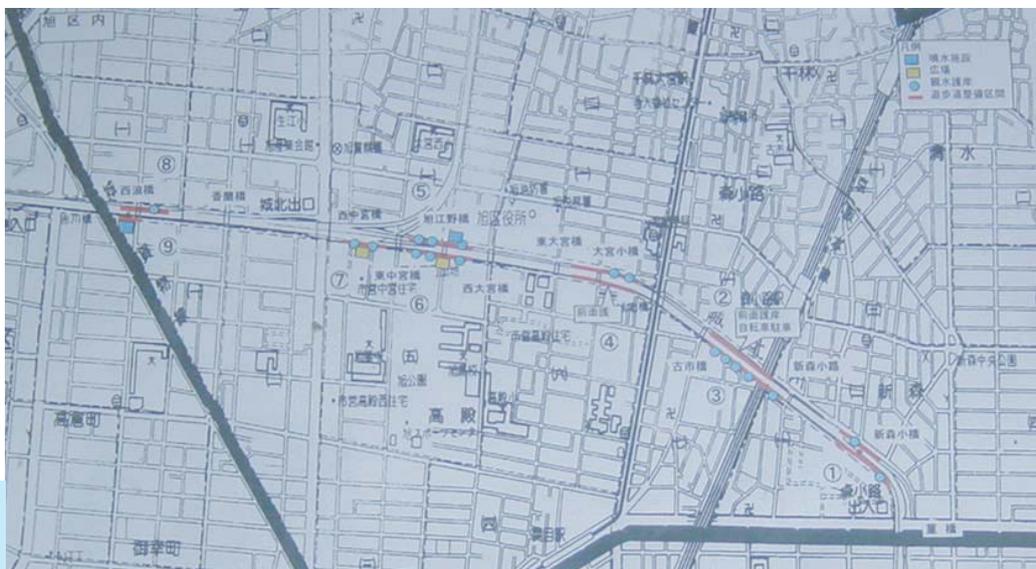
城東区の「城北川愛護運動」のお話を聞きました。

区民1人ひとりが、美しく、1級河川としてブランド・リバーづくりに懸命です。菜の花や桜の木の植樹、青少年の河川クルーズ、3月早春には「城北川フェスティバル」の開催です。”ホテルのとびかう川にしよう”と、みんなて話し合っているそうです。

城北川の川岸は、18カ所の親水護岸があります。

(平成21年10月現在)

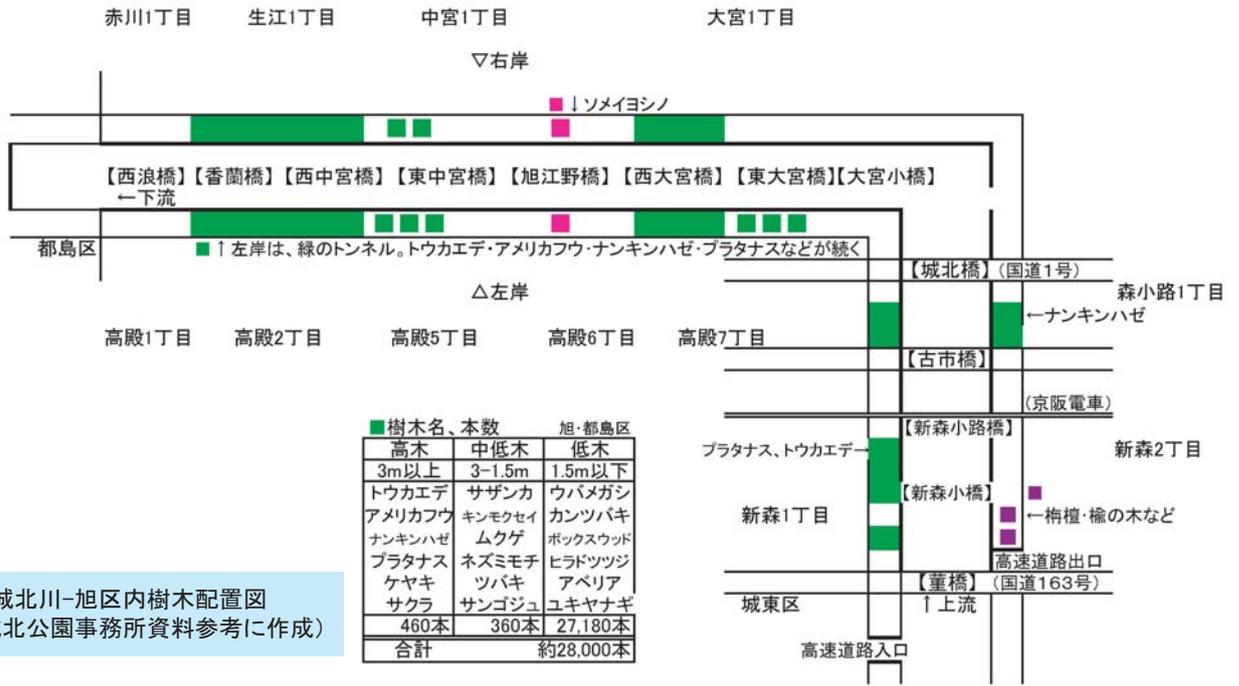
大阪市建設局が工夫した、新しい「リバー・ステージ」は、釣り場として、恋人たちの語らいの場、読書やウォーキングの休憩場としても最適です。この親水護岸を、会合や集合場所として、もっと多目的に活用したいものです。



■旭区内親水護岸配置図
(資料:大阪市建設局東工営所)

城北川遊歩道は、樹木や並木が立ち並ぶ緑道です。

城北公園事務所が管理(旭・都島区)しています。山茶花・楓・寒椿…その数、合わせて820本(1.5m以上の樹木)。菫橋右岸の遊歩道には、樹齢数十年の梅檀や榦の木など銘木が、風を受けて毅然と立っています。旭区民センター横には、ソメイヨシノの桜小公園。香蘭橋から西中宮橋の川岸は、約90本の楓の木。



■城北川-旭区内樹木配置図 (城北公園事務所資料参考に作成)

とくに城北川左岸は、緑のトンネルが続いており、ウォーキングロードとして最適です。でも城北川は、旭区内に入ったとたんに青い空がなく、暗い気持ちになります。



■緑のトンネル-樹木が生い茂る遊歩道-右岸(左から順に…菫橋・東大宮橋・旭区民センター…附近で撮影)



■緑のトンネル-樹木が生い茂る遊歩道-左岸(左から順に香蘭橋・西大宮橋・新森小橋…附近で撮影)

阪神高速道路が上空を併走しているからです。走行中の自動車がドスンという衝撃音を響かせはじめて、すでに40年過ぎています。私たちの夢が浮かんでいるあの空は、どこへ消えたのでしょうか。

夏の夜、NPO法人の推進委員にさそわれて、東横堀川を歩いてきました。

阪神高速道路の下は、星のアーケードでした。大阪をモチーフにした星座のライトアップが、東横堀川の水面に映り、光と水のみごとな演出でした。

■ 阪神高速道路のライトアップ
(写真: 阪神高速道路(株))



城北川は、私たちのまち、大阪の、旭区の財産です。

みんなで集まって、知恵をだして、こころを寄せあって、汗を流して…。次の世代にプレゼントできる、ステキな河川をつくって、渡しておこう。城北川は、きょうも緩やかに、静かに流れています。

流れ続ける、エピソード(城北川の回顧)

30才代の”健康マラソン”(昭和57年当時)

「東雲に空染まる頃、トレーニングウェアに身を包み、近くの城北運河沿いのランニングコースをジョギング。『お早よう』『お早ようさん』すれ違う度に交わす挨拶が多いときは30回を越す。白髪のお年寄りから夫婦あるいは親子、老若男女がそれぞれ自分のペースに併せて健康マラソンを楽しんでおり、今やランニングコースも一つの社交場となりつつあることは喜ばしい限りである。

ただ、昨今のジョギングブームを反映して、健康マラソン・健康ジョギング大会が各地で開催され、少なからず記録順位で賞を出して表彰しているが(中略)健康マラソンを志す人は、真の目的を認識し、他人との競争心をあおり無理なランニングをすることのないよう心掛けたいものだ(旭区新森在住・原田禎文氏寄稿。社内報誌「OMM」より)

<千葉堅次>



■ ランニング・コース標識
(1000m～2000mまで全6コース)

参考図書	城北運河工事概要	大阪市建設局保存資料	旭図書館
	大阪市総合計画21	大阪市市長室企画部	旭図書館
	旭区史創設50周年記念	大阪市都市協会	旭図書館
	大阪の橋	松村博著 松籟社刊	大阪商工会議所
	近代大阪年表	NHK大阪放送局編	大阪商工会議所
	城北川	大阪市建設局	ホームページ

資料提供	大阪市建設局下水道河川部	大阪市住之江区南港北1-14-16
	大阪市建設局東工営所	大阪市城東区今福東2-1-18
	大阪市ゆとりとみどり振興局 城北公園事務所	大阪市旭区生江3-29-1
	大阪市立環境学習センター	大阪市鶴見区緑地公園2-135
	阪神高速道路(株)	大阪市中央区久太郎町4-1-3

旭プールの思い出



■水泳大会

旭プールの近くにある会社に勤務していた関係で、よくプールを利用させて頂いた。会社には、文化体育会が組織されており、夏は社内水泳大会である。

当時の写真(昭和40年)をみると、その様子が懐かしくよみがえる。

まず、プールサイドにテントを張って運営本部を設置、放送設備から救護係、プログラムの作成や表彰状の準備まで本部を中心に手際よく進められた。

当日は開会式、準備体操に始まり、種目別競

技が進められる。その間、ボール争奪戦、〇〇食い競争、日焼け大会と内容は盛り沢山である。

なかでも、生け花部が主催する「プールサイドの生け花展」はこの大会を静かに力強くみまもってくれた。

〈福田輝雄〉



■生け花が飾られたプールサイド

高殿のまちあるきで発見!

60余年前のガード?

平成21年6月18日(木)午後2時から高殿の「まちあるき」を行いました。

予想に反して暑い日でしたが、地下鉄谷町線関目高殿駅近くのコンビニエンスストア前に集合。2時から日傘、手拭、お茶を下げ、京街道・京阪電車地上線を皮切りに、

国道一号線では戦前の建物を見ながら、途中学習センターへ寄り休憩しました。ほっとしたところで、また歩き

出して、今度は工場跡地のスーパー・看護学校・マンション、七曲から大宮神社への参道、旭公園、新制旭第一中学校、城北川遊歩道を通って、旭区民センターへ4時前到着しました。

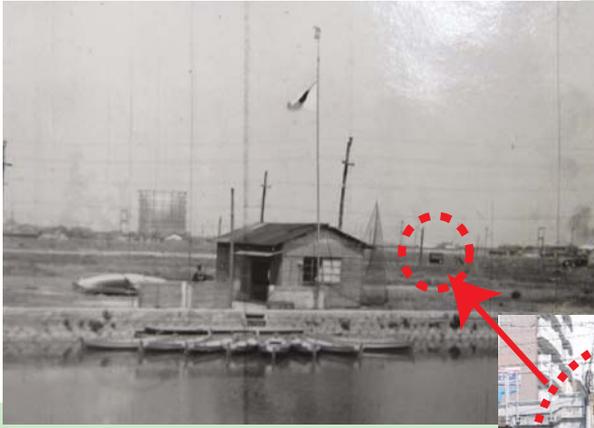


■京街道付近
(平成21年6月18日の「まちあるき」にて)

このまちあるきで思い出したのが、スタート地点より京街道を歩き始めてまもなく、京阪電車高架線をすぎ、新森一丁目へ寄り道した場所でのことです。以前、私の写真で見た(※1より)京阪電車の架線や、ガードだろうと思われるものを見つけることができました。



■旭公園でのスナップ(平成21年6月18日の「まちあるき」にて)



(※1) ■昭和10年頃
貸しポート場所から見たガード辺り
(写真:豊田)

空襲警報が出ると隠れたガード…
もっと高いと思ったけど？



■京阪電車高架
(平成21年6月18日の「まちあるき」にて)

言われてみれば、そのようにも思えますが、現在のその場所は町の真ん中で以前の記憶とはかけ離れていました。ガードは記憶に反しとても低く何だか不思議な気がしました。

昔、空襲警報が出ると身を隠していたガードはもっと高かったなと。

或いはまた、別のガードだったかも知れませんが、当時の京阪線にあったそして今もそのまま残っているこれらの幾つかのガードは当時の幾人かの命を守ってくれたのです。

昭和20年私は新森小路の家から野田橋の造幣局へ通勤していました。6月7日の大阪大空襲のことは、千人塚の記事でも触れましたが、その頃は空襲警報が出ると電車が止まってしまい、歩いて職場へ行くのが常のことでした。

駅まで来て止まっていればそのまま線路伝いに歩く。途中で電車が止まると客は電車から降りて、高架下の道に降り、近くのガードに身を隠す。

線路の両側には隠れるような建物はなかったように記憶しています。

警報が解除になれば、電車が動くまではまた歩き続けて職場へ。こんなことの繰り返しでした。

当時支給された「臨時防衛手当金 壱式五？

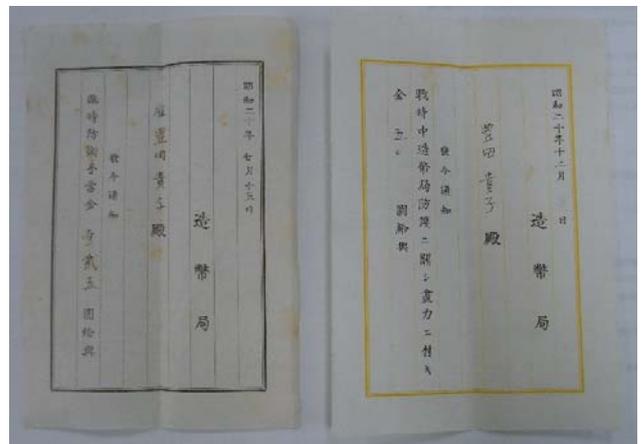
(20.7.15)」、

「戦時中造幣局防護に関し尽力に付き 金50円

給与(20.12.3 最後の日付は不確実)」。

二枚の発令通知が見つかったので、現物写真を

付し回想を終えたいと思います。〈豊田貴子〉



■当時支給された手当金(資料:豊田)



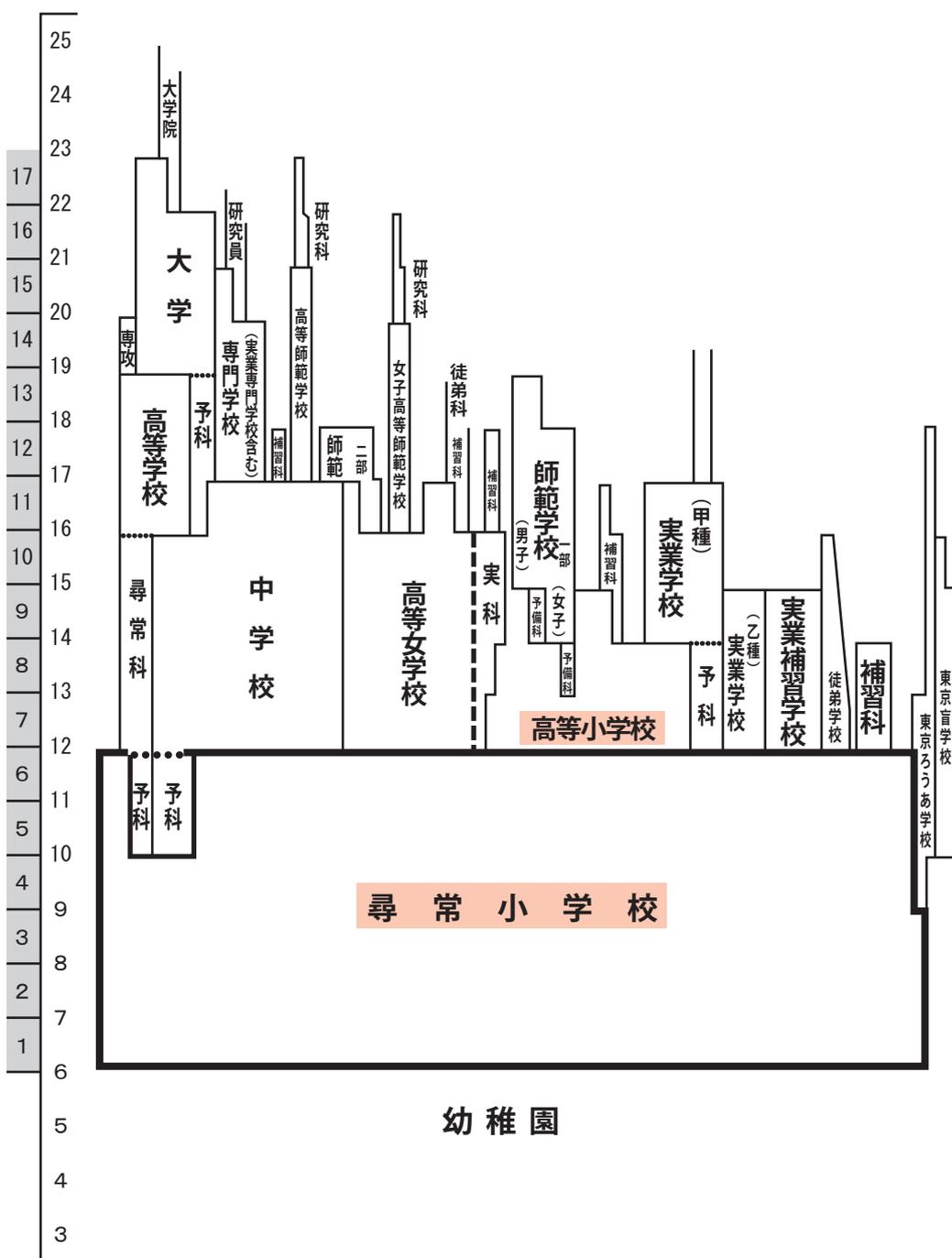
高殿小学校（大宮高等小学校）

【当時の学校制度】

昭和初期の小学校

尋常小学校〔尋常科1年(6才)から尋常科6年(12才)までの6学年の児童が通う学校〕

尋常高等小学校〔尋常科1年(6才)から尋常科6年(12才)までの児童と、高等科1年(13才)・2年(14才)の生徒8学年の児童・生徒が通う学校〕、それと**高等小学校**〔高等科1年(13才)・2年(14才)の2学年の生徒の通う学校〕がありました。

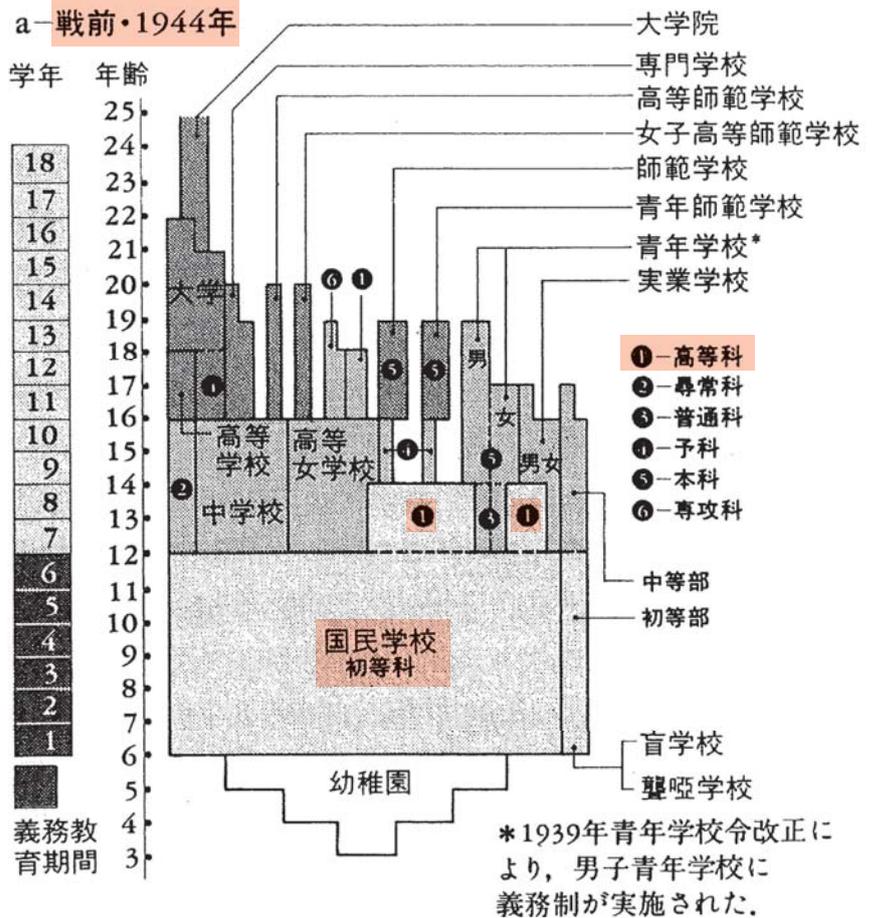


■ 学校制度図
(大正8年)
「教育の歴史」より

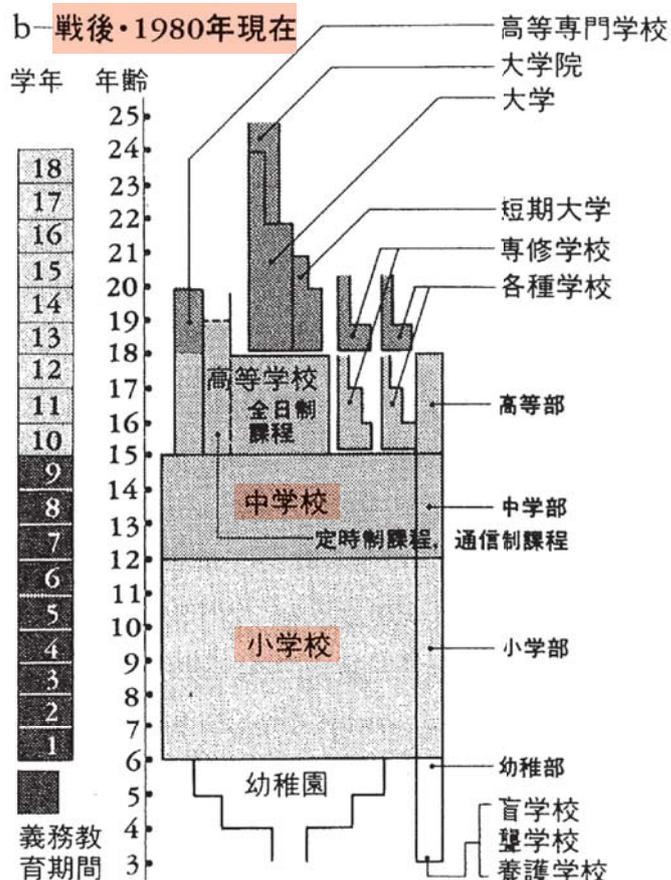
日本の学校系統図 戦前と戦後の比較

右図にあげた学校は、文部省(文部科学省)管轄下の学校

■戦時中の学校制度



■戦後の学校制度



当時、義務教育は尋常科(6ヶ年)卒業で終了しました。上級学校へ進学する子供と働く子供と別れていました。

当時、働いている人には小学校も全く行ってない人も、小学校中退の人もいました。また、高等小学校は義務教育ではありませんでした。

尋常科しかない小学校の児童は尋常高等小学校の高等科や高等小学校に入学していました。

尋常高等小学校に尋常科入学・卒業、高等科入学・卒業した生徒は8年間同じ学校に通っていました。

			(6才) (7才) (8才) (9才) (10才) (11才) (12才)																
			1年	2年	3年	4年	5年	6年											
昭和16年 3月まで (1941年)	尋常小学校	尋常科 入学	●	●	●	●	●	●	卒業	（義務教育 終了）	高等科 入学	(12才) 1年	(13才) 2年	(14才) 卒業	(15才)				
	尋常高等小学校	尋常科 入学	●	●	●	●	●	●	卒業		高等科 入学	1年	2年	卒業					
	高等小学校										高等科 入学	1年	2年						
昭和16年 4月 (1941年) ↷ 昭和22年 3月 (1947年)	国民学校 (初等科だけ)	初等科 入学	●	●	●	●	●	●	卒業	（義務教育 終了）	高等科 入学	1年	2年	卒業					
	国民学校 (初等科と 高等科)	初等科 入学	●	●	●	●	●	●			高等科 入学	1年	2年	卒業					
	国民学校 (高等科だけ)										高等科 入学	1年	2年						
昭和22年 4月 (1947年) ↷ 現在	小学校	小学校 入学	●	●	●	●	●	●	卒業		中学校 入学	1年	2年	3年	(15才) 卒業				（義務教育 終了）
	中学校									中学校 入学	1年	2年	3年	(15才) 卒業					

■ 学校在学児童・生徒の学年の違い
(筆者制作)

大宮高等小学校の開校

昭和15年には現在の旭区の中部・東部には大宮尋常高等小学校・古市尋常高等小学校・清水尋常高等小学校があつて、榎並尋常高等小学校(現城東区)がありました。

各校尋常科卒業後、高等科に進学する生徒も増え、高等科だけの高等小学校を創る必要になり、現在の高殿小学校にあたる大宮高等小学校(当時、旭区大宮町3丁目)が昭和15年6月1日に開校されました。

生徒は大宮尋常高等小学校から、高等科男子347名・女子252名。

古市尋常高等小学校から高等科男子124名・女子101名。

榎並尋常高等小学校から男子だけ296名、合計1,120名で開校されました。また、校舎は新築工事中であつたため、大宮・古市・榎並小の仮校舎を使用して開校されました。



■ 清水尋常高等小学校
(写真:昭和8年「旧清水小学校 卒業記念帖」より)

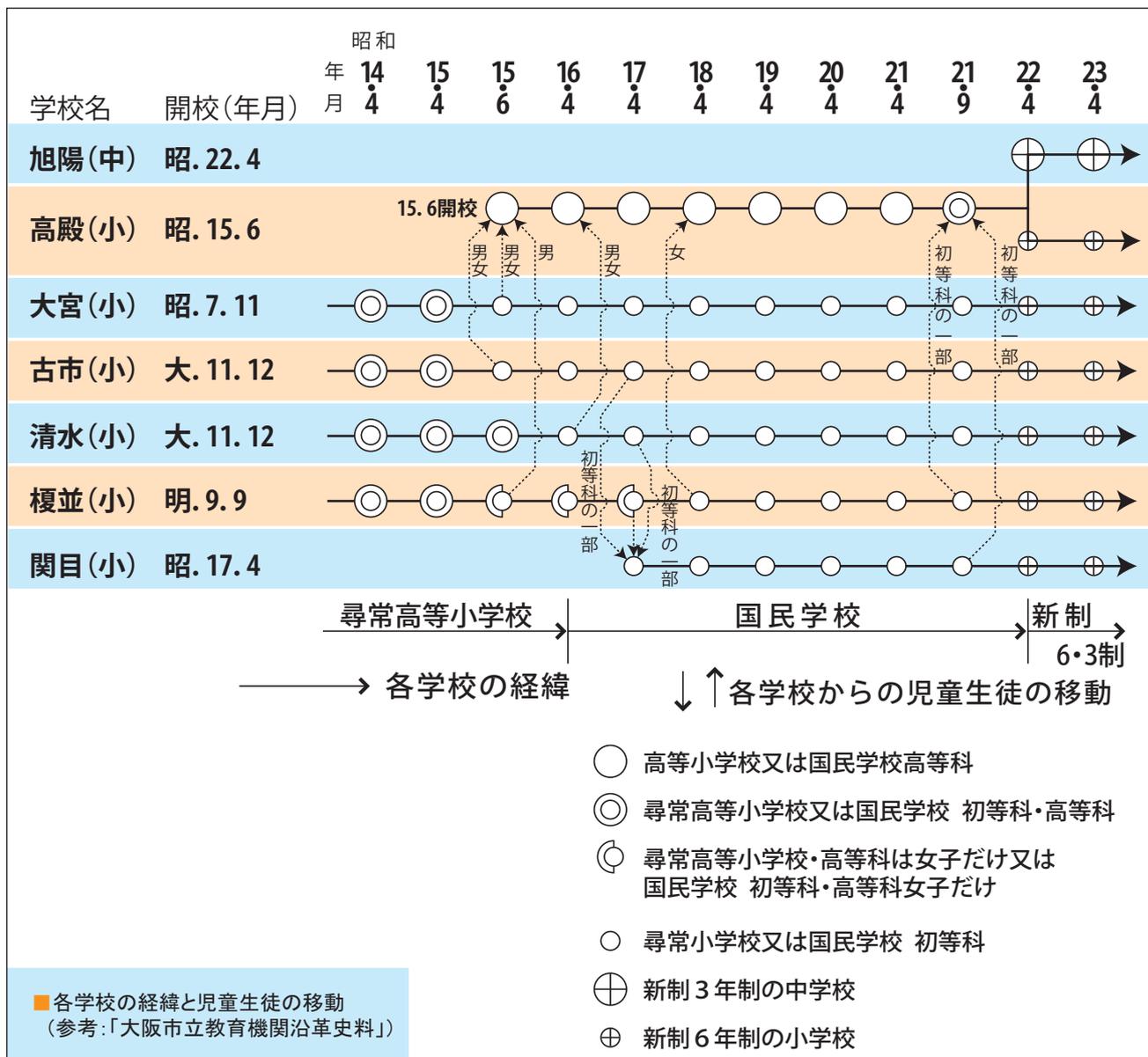
そしてこの時、大宮尋常高等小学校は大宮尋常小学校(6学年・尋常科1年～6年)・古市尋常高等小学校は、古市尋常小学校(6学年・尋常科1年～6年)になりました。榎並尋常高等小学校は、尋常科1年～6年と女子だけの高等科1年・2年の8学年の学校となり、校名はそのままの学校になりました。

この時旭区大宮町9丁目(現大宮4)に大宮尋常小学校と1km程はなれた旭区大宮町3丁目(現高殿6)に大宮高等小学校ができ、よく似た校名でややこしくなりました。

高殿国民学校 高等科

『昭和16年4月小学校令はドイツの教育制度にならった国民学校令と大改正され、従来の尋常科を初等科と呼び、高等科はそのまま高等科と呼ばれるようになりました。このとき義務教育8年に定められましたが、太平洋戦争のため義務年限の延長は実施されませんでした。』

—「榎並と野江の歴史」より



翌、昭和16年国民学校令により、尋常小学校・尋常高等小学校・高等小学校が国民学校になり、大宮国民学校(初等科)と大宮国民学校(高等科)と同名の学校が1km程はなれたところのできるので、昭和16年4月1日大宮高等小学校の校名を学校の建てられている場所の字名の「高殿」から、高殿国民学校と改称されました。

『校名「高殿」の由来・・・』

本校所在地ハ、モト東成郡古市村大字南島小字高殿ト称セシ所ニテ、南島二ハ、小字十八アリ高殿モソノ一小字ニシテ広大ナル地域ニテ、大宮神社ノアリシ地ナリト言ウ、本校々地ハソノ跡ニアリ。故に「高殿」ヲ校名ニ冠ス。—古市郷土誌著者橋本氏の説』

—「学校要覧 高殿」より

『在職中の思い出』

第四代旭区長

寺島圭三

自昭和十五年八月
至昭和十八年一月

『校名や町名の変更をしたこと』

当時区内に大宮尋常小学校と大宮高等小学校との両校が一キロの距りで併立していたので色々紛わらしい事が多かった。そこで私は高等小学校の所在が豊臣秀吉時代の「大宮神社」の高殿の跡であったという史実に基き高殿高等小学校と改称せらるべしと教育部に内申し、遂に今日の如く高殿校と呼ぶことになったのである。

—「旭区政誌」より

【昭和17年】 清水国民学校の高等科の生徒も高殿国民学校に収容され、清水国民学校も初等科だけになりました。又、高殿国民学校には昭和17年11月には榎並・淀川・赤川・城北の四つの青年学校が移され、高殿青年学校が創立されました。

【昭和18年】 榎並国民学校の高等科(女子)も高殿国民学校に収容されました。榎並国民学校も初等科だけになりました。この時点で大宮・古市・清水・榎並の国民学校は初等科だけの国民学校となり、高殿国民学校は高等科のままの国民学校になりました。

【昭和19年4月】 北都島青年学校と合併して北都島国民学校の仮校舎に移り、都島・旭青年学校と改称されました。

【昭和21年】 戦後、高殿国民学校は昭和21年9月5日から初等科を併置、榎並国民学校初等科からは旭区から通学している児童のうち5・6年生を、関目国民学校初等科からは同じく旭区から通学している児童のうち1~4年生を高殿国民学校へ移しました。

【昭和21年4月から】 再び高殿国民学校に高殿商工学校・高殿実科女学校と改称して昼間全日制の学校となりました。

【昭和22年3月31日まで7ヶ月間】 高殿国民学校初等科・高等科の学校になりました。

『昭和22年「教育基本法」「学校教育法」が制定された。学校の名称も国民学校初等科は小学校に改められ高等科は廃止された。さらに3年制の中学校が新しく設けられ、同年4月1日小・中学校9ヶ年を義務教育とする6・3制が発足した。』

—「教育の歴史」より

『中学校

昭和22年4月に実施された学制改革で、その中心となったのは「新制中学」の発足である。これにより6年制の小学校に続く3年課程が義務制となり、9ヶ年の義務教育制が確立することとなった。文部省では、その発足に先立って2月、地方長官に対して、市町村及び府県単位に民主的に選ばれた人びとによって新学制準備協議会を組織し、新学制の趣旨の徹底ならびに校区・校名・校舎の決定などの準備を急がせることにした。

しかしながら余りにも急な実施であり、設置を義務づけられた市町村に於いても、財政の窮迫と資材の欠足に加え、教員の確保も容易ではなかった。

大阪市は中学校の発足に際し、

- 1、新制中学はとりあえず単独高等小学校または青年学校をこれに当てて改編する。
- 2、通学区は原則として卒業小学校単位の指定入学制とする。
- 3、独立校舎設置の方針を進めるが、本年は暫定措置として、国民学校・中等学校の余剰教室を本校または仮校舎・分校として一時的に利用する。

として発表して臨機応変の形で発足したのである。』

「城東区史」より

学制改革により高殿国民学校初等科が現高殿小学校になり、高殿国民学校高等科・高殿商工学校・高殿実科女学校が旭第一中学校(現旭陽中学校)となりました。

旭第一中学校は昭和22年4月創立ですが、昭和22年度3月に一期の卒業生がいます。

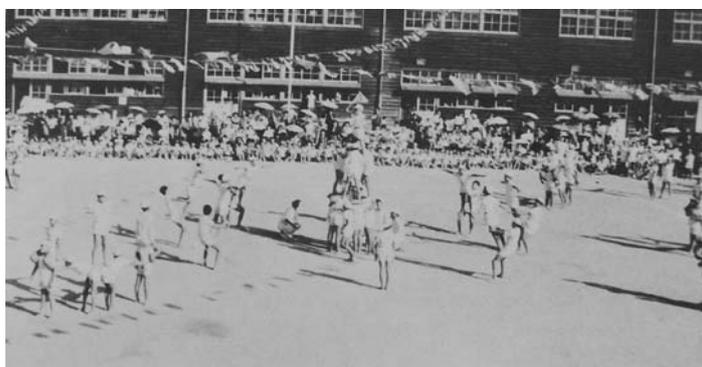
それは、昭和22年3月に高殿国民学校高等科を卒業した生徒や、その他の高等科を卒業した生徒が旭第一中学校3年に編入したからです。

同様に昭和24年3月卒業の二期生は、昭和22年3月に高等科1年終了で旭第一中学校2年に編入した生徒です。

昭和25年3月以降に卒業した生徒は新制中学校1年・2年・3年と学んだ生徒です。

	昭和 21年度	昭和 22年度	昭和 23年度	昭和 24年度
1期 1947年度 【89名】	高等科 2年卒業	新制中学校 3年 編入・卒業		
2期 1948年度 【328名】	高等科 1年終了	新制中学校 2年編入	3年卒業	
3期 1949年度 【692名】	初等科 6年卒業	新制中学校 1年入学	(2年進級)	3年卒業

■旭陽中学校(旭第一中学校)卒業生の推移
「旭陽1997」を参考にして制作



■昔の大阪市立高殿小学校での運動会の様子
(写真:1966年高殿小学校卒業アルバム「想い出」より)



■昔の大阪市立高殿小学校正門
(写真:1966年高殿小学校卒業アルバム「想い出」より)

戦後の流れとともに移り変わる。

高殿小学校は昭和15年6月1日開校時の大宮高等小学校から10年余りの間に校名、児童・生徒の通学区の変更、併設される学校も変わりました。

昭和22年には小学校と中学校と別れ、旭第一中学校(現、旭陽中学校)の高殿小学校の仮校舎利用のち現在の校地へ移り完全独立するまで、旭区の他の小学校にくらべると非常に変化にとんだ学校です。〈上田勢至郎〉

昭和15年6月	大宮高等小学校	高等科
16年4月	高殿国民学校	高等科
21年4月	同上	高等科 高殿商工学校 高殿実科女学校(併設)
21年9月	同上	初等科(併設) 高等科
教育制度(6・3・3・4制)改革		
22年4月	新制 高殿小学校	旭陽中学校(旭第一中学校)

■大阪市立高殿小学校と大阪市立旭陽中学校の経緯



■現在の大阪市立高殿小学校の正門
(平成21年11月21日撮影)



■現在の大阪市立旭陽中学校の正門
(平成21年11月29日撮影)

参考文献	創立50周年記念誌	大阪市立高殿小学校
	学校要覧 高殿	大阪市立高殿小学校
	旭陽1997	大阪市立旭陽中学校
	野江と榎並の歴史	大阪市立榎並小学校
	教育の歴史	河出書房新社
	旭図書館 家庭教育学級	近代の旭区(平成7年)より
	旭区史・旭区政誌	

旭陽中学の歴史

大阪市立旭陽中学校は昭和22年4月大阪市立旭第一中学校として高殿小学校分校に併設され、同24年5月旭陽中学校と改称された。その当時校舎は高殿小学校の一部併設と高殿商工実科女学校の校舎を使用することになった。仮校舎は雨の洩る、風が吹き抜

ける木造のバラック校舎で22年4月20日入学式後、二

教室で第一回の職員会が開かれ、その後

P T Aの総会も二教室の間の板や黒板

をはずし広くして開かれ、終了後又板

黒板をつけて二教室として授業出来る

ようにした。



■校舎 木造バラック校舎(昭和22年4月頃)

生徒数は1320名、学級数26の当時新制中学でも屈指の大世帯であった。通学区校下は高殿・大宮・清水・古市小学校の卒業生を収容し、広大な範囲に渡っていたが、大宮中学、旭東中学の設立により、その後高殿・大宮校下の生徒を収容した。

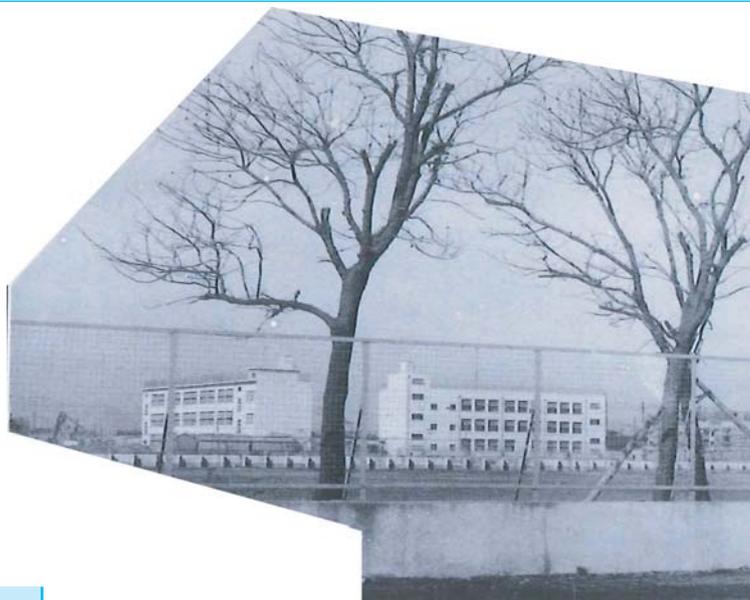
昭和26年11月18日文部省指定のモデルスクール建築目標のもと現在地に新校舎起工式を挙行し、昭和27年10月18日落成式を行い、引っ越しをしたが、全生徒の収容力がないので1年生は分校舎、2,3年生のみが新校舎で授業が実施された。



■思い出の部屋

その後各関係者、P T A校下各位の絶大な援助支援により第2期・第3期工事を経て、昭和28年夏にはモデルスクールにふさわしい校舎が完成されるに至った。

〈島津尚文〉



■新しい校舎(昭和28年夏)



昭和5年に新装開店の飾り付けをした米穀店



■昭和5年撮影、新築商家、新装開店の飾り付けした米屋さん(写真:脇坂氏所蔵)

今市商店街が出来たころに建てられ店屋さん(大二階の家)のひとつ。米屋さんをするので1階の天井を高くとの注文したとの事。写真屋(写真館)さんが商店街の東側の井路川を越え更地から撮ったとの事。四軒長屋。(市電、都島から、昭和4年、今市まで。昭和6年、守口まで開通。)

〈上田勢至郎〉



■現在の米穀店

旭区地域史

区民による地域史づくり・人づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ 【高殿編】

平成22年3月

- 編集／旭区いまむかしの今昔を知る会
- 発行／大阪市旭区役所総合企画担当
- 協力／総合調査設計株式会社

この冊子は、区民の方が中心となって現地確認、聞きとりなどの調査、情報収集をして作成しました。

旭区の今昔を知る会からのお願い

旭区の地域史づくりにご協力ください。

旭区の歴史を子どもたちに残すため、みなさんが持っておられる古い写真や資料をお貸しください。

■江戸時代や明治時代から昭和40年代頃までの、旭区の風景、行事などを写した写真、又は古い資料や道具などなんでも結構です。

■お借りしました写真や資料等は大切に取り扱い、写真データ等におさめた後、返却いたします。

■お借りしました写真や資料等は、地域史作成のための資料や地域史に掲載させていただくほか、旭区役所が実施します各種事業に使用させていただく場合がありますので、ご了承をお願いいたします。

なお、地域史は今後数年かけて作成する予定ですので、お借りしました資料等の掲載にはお時間がかかることがあります。詳しくは旭区役所総合企画担当までお問い合わせください。

「旭区いまむかしの今昔を知る会」とは

平成18年度から公募で集まったメンバーで、区内10地域の身近な歴史や思い出などをとりまとめ、順次「地域史」を作成しています。本会では、地域史の作成を通じて、これまで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、コミュニティのさらなる向上を目指すものと考えています。



平成22年3月

本内容に関するお問い合わせは
大阪市旭区役所総合企画担当まで
tel 06 (6957) 9683